

シグマ研究委員会核データ評価ワーキング・グループ

ガス生成核データサブワーキング・グループ

58年度 第1会合議事録

日時：S. 58年7月15日 13:30～17:00

場所：原研本部第7会議室

出席者：中村（富士），杉（原研），浅野（住友原子力），八谷（三井造船），
飯島（NAIG），山越（船研）

配布資料：

1. GAS-47（再配布）：ガス生成核データWG S. 57年度作業経過，
S. 58年度作業計画（飯島）
2. GAS-83-1：特殊目的核データリストI（飯島）
3. GAS-83-2：特殊目的核データリストV（飯島）
4. GAS-83-3：Q-value表作成に関する問題点（浅野）
5. GAS-83-4：GNASHのRunについて（杉）
6. GAS-83-5：（JENA-AD-10より。断面積調節手法）

議事：

1. Q-value表の作成について
資料4によって、浅野氏から要点、問題点の説明があった。9月の会合時に、
Q-value表（Discに格納）を浅野氏が提示する。その後、WGメンバーが
半減期データをTSS端末から入力して、仕上げる。
2. GNASH Runについての質疑
資料5に沿って、杉氏からGNASHコードによる計算に関して、コードの現
状況、パラメタ入力値の選択、計算出力等についての状況の質疑があり、各メン
バーから答えた。

3. 今年度の作業計画

資料 1, 2, 3 を元にして, 今年度実行計画を討議した。主な討議項目及び結論は以下のである。

(1) この WG に期待されている事柄は, 次の点であろう。

- (i) $\sigma(n, p)$ 等の計算・評価 (系統性も含めて) の仕方の検討, 確立,
- (ii) JENDL-3 用の, 構造材 $\sigma(n, P)$ 等の評価データ作成,
- (iii) JENDL-3 以降のための, 原子炉の運転・保守, 放射線損傷, ドシメトリ等の評価用の特殊目的核データ評価の基礎固め。

(2) 従って, 今年度は, Cr, Fe, Ni 同位元素を主対象として計算・評価を行ない, ファイル作成迄行なってみる。

コードは THRESH-2 を用いる。THRESH-2 を用いることの意義は, ファイル作成, 及び評価の仕方を習熟することである。GNASH コードも用いるが, 今迄の経過で判ったように, 結果に問題点が可成りあり, その検討が先づ必要。

THRESH-2 の整備状況は杉氏が確認する。

THRESH-2 計算は, 中村, 杉, 飯島, (川合) が担当。

(3) GNASH コード計算の検討

昨年度は, ^{27}Al (田中), ^{56}Fe (山越), Au (中村) について計算した。又, Nb (川合, 浅見哲, 松延) についての計算もある。これらの計算結果で, option による異常, 或は $\sigma(E)$ に CASP, BUMP が現れる異常があった。しかし, Fe については ΔE を細かくとったためか, 異常は見られなかった。

今年度は, これらの点について解決し, まとめることが必要である。核種として, ^{19}F を加え, F, Al, Fe, Nb, Au を対象とする。浅野, 山越, 八谷, 杉, (田中) が担当する。

(4) 作業スケジュール

年度末になると各メンバー共多忙となるので, 年内に頻繁に作業を行なうこととし, 月一回の頻度で会合を開く。主として, 東海で作業する。

次回会合予定:

8月24日(水), 25日(木), 原研, 東海核データセンター

内容予定: THRESH-2コードによる計算及び GNASH コード計算検討の進め方の打合せ